授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ビジネス教養Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	８０時間
授業コマ数	４０コマ
授業概要	手紙・ビジネス文書の書き方、漢字の練習、話し方、敬語の使い方を学習し、正しい日本語の使い方を習得する。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る。
達成目標	社会人として必要とされる一般教養の習得及び言葉遣いができるようにする。
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	1 漢字の練習① 2 漢字の練習② 3 漢字の練習③ 4 漢字の練習④ 5 漢字の練習⑤ 6 漢字の練習⑥ 7 漢字の練習⑦ 8 漢字の練習⑧ 9 漢字の練習⑨ 10 漢字の練習⑩ 11 漢字の練習⑪ 12 漢字の練習⑫ 13 漢字の練習⑬ 14 漢字の練習⑭ 15 漢字の練習⑮ 16 敬語の使い方① 17 敬語の使い方② 18 敬語の使い方③ 19 電話応対の方法の理解① 20 電話応対の方法の理解② 21 ボランティア時のマナー① 22 ボランティア時のマナー② 23 ボランティア時のマナー③ 24 保育用語（単語、漢字）① 25 保育用語（単語、漢字）② 26 保育用語（単語、漢字）③ 27 保育用語（単語、漢字）④ 28 保育用語（単語、漢字）⑤ 29 保育用語（単語、漢字）⑥ 30 保育用語（単語、漢字）⑦ 31 保育用語（単語、漢字）⑧ 32 文章の読み取り（保育時事）① 33 文章の読み取り（保育時事）② 34 漢字の練習⑯ 35 漢字の練習⑰ 36 漢字の練習⑱ 37 漢字の練習⑲ 38 漢字の練習⑳ 39 復習（漢字・敬語の文章読解） 40 テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況、試験にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育原理
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	教育の目的・内容・方法及び子ども家庭福祉との関連性について理解するとともに、教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に学ぶ。また、生涯学習時代のあり方についても触れる。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教育の基本概念および教育活動における実践原理を理解する。
教科書	保育のための教育原理
特記	
授業計画	1 保育に関わる教育原理 2 教育の意義と目的 3 保育者の役割 4 教育の歴史（諸外国） 5 教育の歴史（日本） 6 これまでの復習（教育の意義、目的、歴史、保育者の役割） 7 教育制度の仕組み 8 教育に関する法律 9 今日行く方法と内容 10 教育の計画と評価 11 今日の教育を考える（グループ学習①） 12 今日の教育を考える（グループ学習②） 13 今日の教育を考える（グループ学習③） 14 今日の教育を考える（グループ学習④） 15 テストとまとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会福祉
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	社会福祉の理念の理解をもとに、わが国の社会福祉の体系、相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。また、社会福祉にいおける子ども家庭支援の視点について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	社会福祉について現状及び課題への理解を深める。
教科書	コメディカルのための社会福祉　第5版
特記	
授業計画	1 現代社会と社会福祉について 2 人間の基本的ニーズ（欲求）について 3 社会保障の仕組み、社会保険について 4 社会福祉の歴史と社会福祉事業について 5 低所得者福祉について 6 障がい者福祉について 7 福祉サービス利用者の権利擁護と高齢者福祉 8 児童福祉について 9 児童家庭支援センターについて 10 児童虐待について 11 保育サービスについて 12 母子及び父子家庭の福祉について 13 民生委員・児童委員について 14 社会福祉援助技術について 15 社会福祉施設と社会福祉専門職について
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会的養護Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	現代社会における社会的養護の理念と概念や歴史的変遷について理解し、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について学習する。また、社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	社会的養護及び子どもの人権、権利について理解する。
教科書	新基本保育シリーズ⑥　社会的養護Ⅰ
特記	
授業計画	1 社会的養護の理念と概念 2 社会的養護の歴史的変遷 3 社会的養育推進計画の経緯と現状 4 児童の権利に関する条約と推進計画の関係 5 釈迦的養護における保育士等の倫理と責務 6 社会的養護の制度と実施体系 7 社会的養護の仕組みと実施体系 8 社会的養護の対象と支援のあり方 9 家庭養護と施設養護 10 社会的養護施設（児童養護施設他）の現状 11 福井県社会的養護推進計画の中身とは 12 福井県社会的養護推進計画及び各施設での取り組みの現状 13 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 14 社会的養護と地域福祉の現状と課題 15 試験及びまとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教職概論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義（実務経験のある教員による授業科目です）
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	教育の現状を理解するとともに課題を捉え、教職の意義や教師の役割を考える。また、求められる教師像を基にその資質や能力について学び、自己形成を図る。さらに教師としての職務を遂行するための姿勢や能力の開発、実践力について考え、自己の未来像を築く。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有する。
教科書	新訂　教職入門未来の教師に向けて
特記	
授業計画	1 「教育」と「教師」について考える 2 教師になりたい動機と資質・能力 3 日本における教師の歴史 4 現代社会の子どもの現状 5 幼稚園・保育所・認定こども園の生活と遊び 6 小学校教員の役割 7 チームとしての学校 8 カウンセリングマインド 9 保育・教育の場とカウンセリングマインド 10 グローバル化と教師の役割 11 情報化と教師の役割 12 教師をめぐる法律 13 教師の身分と服務義務 14 教育改革とこれからの教師 15 教職の専門性と研修
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育心理学
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	教育心理学は、様々な教育活動を心理的に研究し、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得する目的を持つ。ここでは、「学ぶ」ことを中心に、事例を挙げながら解説し、養育心理学の基礎的な概念や理論、および実践的な知識の習得を図る。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	教育心理学に関する基礎的な知識を習得する。
教科書	やさしい発達と学習
特記	
授業計画	1 教育心理学の理論と方法 2 心身の発達(1)発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達 3 心身の発達(2)児童期の認知発達と社会性の発達 4 心身の発達(3)青年期以降の発達と発達課題 5 学習理論と教育場面への応用 6 子どもの理解(1)記憶の分類と知識獲得 7 子どもの理解(2)メタ認知と学習方略 8 子どもの理解(3)問題解決の基礎と応用 9 子どもの理解(4)動機付けの基礎と応用 10 子どもの学びの支援(1)教師の役割と授業の過程 11 子どもの学びの支援(2)学習指導の理論と方法 12 子どもの学びの支援(3)主体的な学びの授業と個に応じた学びの援助 13 教育評価の分類と方法 14 学級集団の機能と査定 15 振り返りとまとめ 16 テスト
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育課程総論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	構成主義に基づく幼児教育のカリキュラムを中心に、日本で行われている特徴的な幼児教育プログラムを発達理論の観点から検討する。また、望ましい学習や発達を引き出す活動の原則について考える。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教育課程の目的や意義に関して、基本的な理解を深める。 幼児期の特性を踏まえ、幼児教育課程の在り方に対する理解を深める。 教育課程の編成及び指導計画の作成に対する理解を深める。
教科書	あたらしい幼児教育課程総論
特記	
授業計画	1 幼児期の特質 2 教育課程　全体的な計画の意義と方向 3 「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 4 幼稚園・保育所・認定こども園の基本的な性質について 5 保育と教育の歴史的な流れについて 6 環境を通して行う教育 7 教育課程、全体的な計画の基準 8 幼稚園教育要領と保育所保育指針について 9 幼児教育課程の基本 10 基礎となる幼児の姿① 11 基礎となる幼児の姿② 12 目的・目標とねらい及び内容について 13 教育課程、全体的な計画の編成と指導計画の作成 14 教育課程、全体的な計画の評価 15 教育課程、全体的な計画と指導計画の実例
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育内容総論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」に関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの特性や発達過程、養護と教育について理解し、保育での展開について学ぶ。
教科書	新基本保育シリーズ⑭保育内容総論
特記	
授業計画	1 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容 2 保育内容の歴史的変遷とその社会背景 3 保育所保育指針に基づく保育内容理解（0～2歳児の保育内容と展開） 4 保育所保育指針に基づく保育内容理解（4･5歳児の保育内容と展開） 5 異年齢児・家庭・地域・小学校との連携 6 養護と教育の一体的保育について 7 子どもの主体性を尊重する保育とは 8 保育内容と子どもの理解
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	健康（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の基礎として何が必要であるか、そして発育・発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	健康に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育内容「健康」　（新しい保育講座7）
特記	
授業計画	1 保育者の役割 2 各指針の中の「健康」領域の確認 3 子ども理解を深める 4 身近な廃材を使った遊び 5 現代社会の子どもと生活習慣 6 子どもの安全・管理について 7 子どもの安全・管理について② 8 まとめ、試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	人間関係（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児が他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。演習を通して乳幼児の遊びや生活全体を通して「豊かな人間関係」や「身近な人と気持ちが通じ合う心」を育むための保育士の留意点や配慮すべき事項を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	領域「人間関係」に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	保育内容「人間関係」（アクティベート保育学）
特記	
授業計画	1 子どもを取り巻く環境と人間関係 2 要領・指針と領域「人間関係」 3 子どもの発達と人間関係（１） 4 子どもの発達と人間関係（２） 5 「人間関係」を含めた10の姿の解説 6 計画作成から観る「人間関係」 7 グループワーク① 8 グループワーク②、試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	環境（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	子どもを取り巻く環境について考え、環境を通して行う保育について学ぶ 乳幼児期における環境構成の必要性と重要性について学ぶ
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの環境に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	こども主体の協同的な学びが生まれる保育
特記	
授業計画	1 環境構成によって与える影響 2 自然体験（グループワーク） 3 伝統行事の指導法 4 指導案作成（グループワーク） 5 アクティブラーニング、主体的学習とは 6 事例から学ぶ 7 ポスターセッション 8 まとめ、筆記試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	言葉（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う領域「言葉」について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	言葉に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 絵本から学ぶ 2 百人一首から学ぶ 3 ことわざ・慣用句 4 四字熟語 5 かるたから学ぶ 6 あいうえお作文・手紙 7 俳句 8 まとめ、筆記試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	造形表現（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	演習授業内で使用する各課題での素材の特性を実際の作品制作の中で経験し、その経験の中から発達段階にある乳幼児の表現に対しての指導方法を学ぶ。子どもが自由に発想し制作する作品に対しての理解力や対応力を身につける。
授業の進め方	テキストによる講義と課題提出により、知識の定着を図る。
達成目標	造形表現を通して子どもの遊び、表現力、想像力の向上が図れるように基本技法を習得する。
教科書	造形表現（指導法）、2・3・4・5歳児の技法あそびの実践ライブ
特記	
授業計画	1 画材の特徴理解 2 水彩絵の具の扱い方、技法 3 色相環、3原色について 4 クレヨンの種類と年齢にあった選択① 5 クレヨンの種類と年齢にあった選択② 6 年齢に即した、はさみ・のりの使用法 7 表現技法①：貼り絵 8 表現技法②：顔の描き方(動物･子ども･大人) 9 表現技法③：日常生活で、目にする物の描き方 10 身近な素材利用（廃材） 11 発達に合わせた作成物とその指導法① 12 表現技法④：コラージュ 13 表現技法⑤：行事の絵 14 発達に合わせた制作物とその指導法② 15 発達に合わせた作成物とその指導法③ 16 提出課題作成
成績評価方法 (試験実施方法)	課題、授業への参加姿勢、提出物により評価する。60点以上を合格とする。□
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と音楽表現
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノ・声楽を通じ、鍵盤奏法や歌の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。
授業の進め方	演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏や童謡を歌うことができる。
教科書	音楽教本、声楽教本
特記	
授業計画	1 ハ長調のピアノと歌① 2 ハ長調のピアノと歌② 3 ハ長調のピアノと歌③ 4 ハ長調のピアノと歌④ 5 ト長調のピアノと歌① 6 ト長調のピアノと歌② 7 ト長調のピアノと歌③ 8 ト長調のピアノと歌④、実技試験
成績評価方法 (試験実施方法)	実技試験、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽表現（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。
授業の進め方	演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	音楽表現に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 教育要領、保育指針における領域「表現」 2 幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点 3 幼児の理解と評価 4 音楽表現あそびの教材・情報収集 5 音楽表現あそび（手あそび・歌あそび） 6 表現あそびの指導計画（指導案作成） 7 小学校音楽の授業につながる音楽あそび 8 様々な素材を使った音楽あそび、実技試験
成績評価方法 （試験実施方法）	実技試験、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	児童文化
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	児童文化の歴史や重要性、現在の児童文化を取り巻く環境について学び、 様々な児童文化財について、与え方や作り方などを学習する。
授業の進め方	テキストによる講義と演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の理解及び環境、衛生管理を理解する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 児童文化の必要性 2 スポーツと遊び 3 子どもの作る文化財 4 伝承遊び 5 お話と劇①絵本 6 お話と劇②紙芝居 7 お話と劇③各種人形劇 8 遊び場と施設、組織と活動 9 紙芝居について実践 10 ペープサート作成 11 パネルシアター作成①題材決め、下絵 12 パネルシアター作成①題材決め、下絵 13 パネルシアター作成② 14 パネルシアター作成③ 15 発表 16 レポートとまとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育方法論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	教師が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法・技術」について明らかにするとともに、それを身につけるために必要な知識・技術の習得とそれを活用しての指導力養成について実践的視点から考察できるようにする。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教育の方ほに関する理論的知識を習得する。乳幼児期の教育に関する基本原理を理解し、説明できる。これらを踏まえ、保育現場における実践を構想できるようになる。
教科書	幼児教育・保育のための教育方法論
特記	
授業計画	1 教育方法の基礎理論 2 日本の幼児教育方法の歴史 3 環境を通して行う教育 4 子どもの育ちと物的環境 5 子どもの育ちと人的環境 6 子どもの育ちと社会的環境 7 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程 8 「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係 9 幼児理解に基づいた評価 10 幼児教育・保育における遊び 11 幼児教育・保育における計画と評価 12 幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用 13 情報活用能力と幼児教育・保育 14 幼児教育・保育のこれから 15 テスト対策
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	健康科学
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	生活習慣と環境との相互作用が、健康状態に与える影響を学ぶ。また、スポーツを文化的視点、生物学的視点、運動学的視点等の様々な視点で捉えることにより、自己の健康・体力づくり及び豊かなライフスタイルについての見識を身につける。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	生活習慣と健康状態について理解し、日常生活において必要な運動を理解する。
教科書	生涯スポーツ・健康科学
特記	
授業計画	1 より豊かな健康を求めて 2 食生活と健康① 3 食生活と健康②、疾病と生活習慣病 4 アルコールと健康、たばこと健康 5 健康の維持・増進のための運動の処方 6 運動の効果と積極的休養 7 生活と健康 8 復習（食生活と健康、運動と健康）
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	生涯スポーツ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	２４時間
授業コマ数	１２コマ
授業概要	各種スポーツ能力の向上、自己の健康・体力を適切に管理できる能力を養う。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	各種スポーツを通して運動能力の向上及び幼児期における運動体験を理解する。
教科書	生涯スポーツ・健康科学
特記	
授業計画	1 スポーツ体験① 2 スポーツ体験② 3 スポーツ体験③ 4 チーム対抗スポーツ① 5 チーム対抗スポーツ② 6 幼児期の保育現場で必要とされる運動① 7 幼児期の保育現場で必要とされる運動② 8 幼児期の保育現場で必要とされる運動③ 9 保育現場で多く使用する動き・表現① 10 保育現場で多く使用する動き・表現② 11 グループの研究に基づく運動表現の発表① 12 グループの研究に基づく運動表現の発表②、レポート
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。□
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	英会話Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	基本的な英語力として、基礎的な単語力、文法力を習得し、reading及びwritingの力及び日常生活における基礎的な会話力を身に付ける。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	基本的な英会話力を身に付ける。
教科書	What’s UP? forSDGs
特記	
授業計画	1 英会話への第一歩 2 自己紹介に関する単語マスター 3 基本的な文法① 4 基本的な文法② 5 基本的な英単語 6 基本的な英会話（あいさつ等） 7 基本的な英会話（相手を知る質問） 8 中間確認テスト 9 英語でのプレゼンテーションの方法 10 個人別プレゼンテーションの作成／個別指導① 11 個人別プレゼンテーションの作成／個別指導② 12 個人別プレゼンテーションの作成／個別指導③ 13 個人別プレゼンテーションの作成／個別指導④ 14 プレゼンテーション発表の練習と準備 15 プレゼンテーション発表 16 総評・まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	情報処理入門
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	４６時間
授業コマ数	２３コマ
授業概要	パソコンの基本知識及び基本的操作技術を習得し、業務における様々な目的に応じて、柔軟かつ効率よく対処できる能力を習得する。
授業の進め方	演習により、知識の定着を図る。
達成目標	基本的なパソコンスキル及びビジネスソフト（Word、Excel、Powerpoint）の操作方法を習得する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 パソコンの基本操作 2 フォルダとファイル、文字入力 3 一般的なビジネス文書の作成① 4 一般的なビジネス文書の作成② 5 表で項目や数値を整理した文書の作成① 6 イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成① 7 イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成② 8 表作成の基本操作① 9 表作成の基本操作② 10 表を見やすく使いやすくする編集操作 11 数式・関数を活用した集計表の作成① 12 数式・関数を活用した集計表の作成② 13 グラフの基本 14 目的に応じたグラフの作成と編集 15 実技試験 16 PowerPointの使い方① 17 PowerPointの使い方② 18 PowerPointの使い方③ 19 課題作成①（プレゼンテーション） 20 課題作成②（プレゼンテーション） 21 課題作成③（プレゼンテーション） 22 課題作成④（プレゼンテーション） 23 課題作成⑤（プレゼンテーション）・発表
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育実習事前指導
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	教育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教育実習の意義、実習の計画・実際・記録・評価について理解し、実践力を高める。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 教育実習の概要・意義・目的 2 実習における準備と心構え 3 実習への取り組み、観察の方法 4 実習日誌の記録の取り方① 5 実習日誌の記録の取り方② 6 発達に応じた指導計画について 7 指導計画案の作成について① 8 指導計画案の作成について②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況にて評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こども園見学
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	２０時間
授業コマ数	１０コマ
授業概要	こども園での見学実習を通して、施設の役割や仕組み、子どもの年齢ごとの発達を知り、「保育教諭の仕事」を理解する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	こども園の一日の流れや子どもの様子を知り、保育について理解を深める。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 こども園見学オリエンテーション 2 こども園の概要、一日の流れ 3 年齢発達についての理解（未満児） 4 年齢発達についてに理解（以上児） 5 子どもの遊び、環境への理解 6 絵本、手遊びの効果、実践 7 こども園見学　観察　子ども園の一日の流れの理解 8 こども園見学　体験　子どもへの援助 9 振り返り　気づき、理解のまとめ 10 発表形式により実施
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育見学実習
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	実際の幼児教育現場の体験を通じて、幼稚園の一日の流れや施設の役割、教員の役割、また子どもの発達を理解し、実習に向けての目標を明確にする。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	幼稚園の教員の役割を知り、自らの課題を明確にし、実習にむけた目標を立てる。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 教育見学実習オリエンテーション 2 幼稚園の一日の流れ、教員の役割 3 実習日誌の理解、実習生の気づきとは 4 子どもにとっての遊びの理解 5 幼稚園見学実習　観察　幼稚園の一日の流れの理解 6 幼稚園見学実習　観察　幼稚園の一日の流れの理解 7 幼稚園見学実習　観察　幼稚園の一日の流れの理解 8 幼稚園見学実習　体験　子どもとの関わり 9 幼稚園見学実習　体験　子どもとの関わり 10 幼稚園見学実習　体験　子どもとの関わり 11 幼稚園見学実習　体験　子どもとの関わり 12 幼稚園見学実習　体験　子どもとの関わり 13 幼稚園見学実習　体験　絵本・手遊びの実施 14 振り返り、反省と考察 15 教育実習にむけての課題設定
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	レクリエーション概論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	レクリエーションの意義と歴史・仕組み等、制度につて理解を深める。また、現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況を確認し、レクリエーション支援が必要とされる場面について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	レクリエーション理論の基礎を習得し、子どもの発達に応じた事業計画・展開方法を習得する。
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり～レリレーション支援の理論と方法～
特記	
授業計画	1 レクリエーションの意義 2 レクリエーション運動を支える制度　インストラクターの役割 3 ライフスタイルとレクリエーション 4 少子化の課題・地域とのレクリエーション 5 レクリエーション事業について 6 ホスピタリティーとは 7 アイスブレーキングの基本技術 8 復習事業計画、コミュニケーション 9 レクリエーションの基礎 10 レクリエーション支援論 11 レクリエーション事業論 12 復習（基礎・支援論・事業論）① 13 復習（基礎・支援論・事業論）② 14 復習（基礎・支援論・事業論）③ 15 復習（基礎・支援論・事業論）④
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽Ⅰ（器楽・声楽）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１２０時間
授業コマ数	６０コマ
授業概要	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノ・声楽を通じ、鍵盤奏法や歌の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。
授業の進め方	演習にて、技術の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏や童謡を歌うことができる。
教科書	音楽教本、声楽教本
特記	
授業計画	1 リズム①　ソルフェージュ① 2 リズム②　ソルフェージュ② 3 リズム③　ソルフェージュ③ 4 リズム④　ソルフェージュ④ 5 リズム⑤　ソルフェージュ⑤ 6 コールユーブンゲン①　コンコーネ① 7 コールユーブンゲン②　コンコーネ② 8 コールユーブンゲン③　コンコーネ③ 9 コールユーブンゲン④　コンコーネ④ 10 コールユーブンゲン⑤　コンコーネ⑤ 11 コールユーブンゲン⑥　季節の歌① 12 コールユーブンゲン⑦　季節の歌② 13 コールユーブンゲン⑧　季節の歌③ 14 コールユーブンゲン⑨　季節の歌④ 15 コールユーブンゲン⑩　季節の歌⑤ 16 コールユーブンゲン⑪　コンコーネ① 17 コールユーブンゲン⑫　コンコーネ② 18 コールユーブンゲン⑬　コンコーネ③ 19 コールユーブンゲン⑭　コンコーネ④ 20 コールユーブンゲン⑮　コンコーネ⑤ 21 季節の歌⑥　生活の歌① 22 季節の歌⑦　生活の歌② 23 季節の歌⑧　生活の歌③ 24 季節の歌⑨　生活の歌④ 25 季節の歌⑩　生活の歌⑤ 26 ピアノ基本奏法① 27 ピアノ基本奏法② 28 ピアノ基本奏法③ 29 ピアノ基本奏法④ 30 ピアノ基本奏法⑤ 31 基本奏法　バイエル① 32 基本奏法　バイエル② 33 基本奏法　バイエル③ 34 基本奏法　バイエル④ 35 基本奏法　バイエル⑤ 36 基本奏法　バイエル⑥ 37 基本奏法　バイエル⑦ 38 基本奏法　バイエル⑧ 39 基本奏法　バイエル⑨ 40 基本奏法　バイエル⑩ 41 基本奏法　バイエル⑪ 42 基本奏法　バイエル⑫ 43 基本奏法　バイエル⑬ 44 基本奏法　バイエル⑭ 45 基本奏法　バイエル⑮ 46 基本奏法　季節の曲① 47 基本奏法　季節の曲② 48 基本奏法　季節の曲③ 49 基本奏法　季節の曲④ 50 基本奏法　季節の曲⑤ 51 基本奏法　季節の曲⑥ 52 基本奏法　季節の曲⑦ 53 基本奏法　季節の曲⑧ 54 基本奏法　季節の曲⑨ 55 基本奏法　季節の曲⑩ 56 基本奏法　季節の曲⑪ 57 基本奏法　季節の曲⑫ 58 基本奏法　季節の曲⑬ 59 基本奏法　季節の曲⑭ 60 試験
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実技試験にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	合同PRⅠ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	３学年合同の授業を行い、グループ毎に遊びを計画し、指導案を立て、現場で実践する。また、全員で一つの行事を計画、準備、実行する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	遊びがどのように準備され、展開されていくのかを知り、自分の役割を理解していきながら、準備に意欲的に参加し、作り上げていく。
教科書	
特記	
授業計画	1 3学年でのレクリエーション 2 遊びの計画①内容について 3 遊びの計画①指導案作成 4 遊びの計画①準備物用意 5 遊びの計画①実践、振り返り 6 遊びの計画②内容について 7 遊びの計画②指導案作成 8 遊びの計画②準備物用意 9 遊びの計画②実践、振り返り 10 行事の計画　内容について 11 行事の計画　指導案作成 12 行事の計画　準備物用意・劇の練習 13 行事の計画　準備物用意・劇の練習 14 行事の計画　リハーサル 15 行事の計画　実践、振り返り、まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	遊びの研究Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	１年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	演習を交えながら幼児の年齢に応じたレクリエーション方法（歌、集団遊び、野外遊びなど）を学習する。また四季を感じさせる製作（壁面や園での行事の製作）も身に付ける。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	子どもの年齢に応じた遊びを理解し、集団ゲームや音楽遊び、製作遊びなどの実践を通して子どもを楽しませるツールを習得する。
教科書	
特記	
授業計画	1 子どもにとっての遊びの目的と意義 2 年齢に応じた遊び（歌）① 3 年齢に応じた遊び（歌）② 4 年齢に応じた遊び（集団遊び）① 5 年齢に応じた遊び（集団遊び）② 6 年齢に応じた遊び（集団遊び）③ 7 年齢に応じた遊び（ネイチャーゲーム）① 8 年齢に応じた遊び（ネイチャーゲーム）② 9 年齢に応じた遊び（自然物遊び）① 10 年齢に応じた遊び（自然物遊び）② 11 遊びにおけるねらいと保育者の配慮とは 12 遊びにおける指導案とは 13 指導案をもとに遊びを展開する① 14 指導案をもとに遊びを展開する② 15 復習（年齢ごとの遊び、指導案、ねらい）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ビジネス教養Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	読解力・作文能力を養い、社会人として、また保育士として正しい日本語の使い方を習得する。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	社会人として必要とされる知識を習得し、敬語や話し方など正しい言葉遣いができるようにする。
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	1 漢字の練習① 2 漢字の練習② 3 漢字の練習③ 4 保育用語（単語、漢字）① 5 保育用語（単語、漢字）② 6 保育用語（単語、漢字）③ 7 敬語の使い方① 8 敬語の使い方② 9 お礼状の書き方 10 文章の読み取り（保育時事）① 11 文章の読み取り（保育時事）② 12 文章の読み取り（保育時事）③ 13 漢字の練習④ 14 漢字の練習⑤ 15 復習（漢字・敬語の文章読解）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	就職実務Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	社会人を意識し就職試験対策を行う。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識の定着を図る。
達成目標	就職に対する知識を身に付ける。
教科書	就職ガイドブック、就職ノートブック
特記	
授業計画	1 就職の心構え 2 自己PR、自己分析① 3 自己PR、自己分析② 4 自己PR、自己分析③ 5 自己PR、自己分析④ 6 自己PR、自己分析⑤ 7 自己PR、自己分析⑥ 8 履歴書の記入① 9 履歴書の記入② 10 企業研究① 11 企業研究② 12 企業研究③ 13 個人面談 14 志望動機① 15 志望動機②
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、課題提出により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育原理
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	保育者となるための基本的な考えを総合的に学習する。保育の意義及び目的を理解するとともに、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本について理解を深め、保育の現状と課題を理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	保育を取り巻く環境及び意義や保育者として求められる多様な役割を理解し、心構えや保育観を身につける。
教科書	保育原理の基礎と演習
特記	
授業計画	1 保育の目的／養護と教育・子どもの権利・子どもの最善の利益 2 保育の歴史／西洋と日本（江戸から明治、昭和）・平成から現状について 3 保育の基本／法律下での保育の在り方・保幼認とは・保育者とは 4 子どもの発達／乳児（０～２歳） 5 子どもの発達／幼児（３～６歳） 6 養護と５領域／養護とは・３つの視点と５領域・保幼小の連携 7 保育の方法／保育指針の留意事項・保育における環境 8 保育の過程／環境構成と計画・実践と評価 9 ワーク／“私の木”なりたい保育者像について考察 10 保育における配慮／健康と安全・保育の中での食育と家庭 11 保育における配慮／障がい児保育・気になる子ども・児童虐待 12 子育て支援／子育てをめぐる問題点 13 保育の質の向上／自己研鑽・研修・チームワーク・評価 14 まとめとテスト対策 15 試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭福祉
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	現代社会において子どもがおかれている現状を把握するとともに、現在の子ども家庭福祉の制度及びその役割を体系的に理解する。また、子どもの人権、子どもをとりまく環境、子ども家庭福祉に係る援助活動について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子ども家庭福祉の現状を理解し、保育者及び周辺職種の役割を理解する。
教科書	こども家庭福祉　子どもと家庭を支援する
特記	
授業計画	1 現代社会と子ども福祉 2 諸外国における子ども家庭福祉 3 日本における子ども家庭福祉 4 子ども家庭福祉の理念 5 子ども家庭福祉の法律 6 子ども家庭福祉の機関 7 子ども家庭福祉の専門職 8 児童福祉施設の種類と役割 9 子ども虐待の現状と帽子の取組み 10 養護を必要とする子どもへの施策 11 ひとり親世帯・生涯のある子どもへの施策 12 母子健康施策と健全育成 13 保育サービスの現状と課題 14 少子化対策の流れ 15 試験
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭支援の心理学
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	生涯発達に関する心理学の基本的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義と機能、子育て家庭を取り巻く社会状況、子供の精神保健とその課題について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	生涯発達や子育て家庭を取り巻く社会状況を理解する。
教科書	新・基本保育シリーズ９　子ども家庭支援の心理学
特記	
授業計画	1 乳幼児の発達 2 幼児期の発達 3 学童期の発達 4 青年期の発達 5 成人期・中年期の発達 6 高齢期の発達 7 家族・家庭の意義と機能 8 家族関係・親子関係の理解 9 子育ての経験と親としての育ち 10 子育てを取り巻く社会的状況 11 ライフコースと仕事・子育て 12 多様な家庭をその理解 13 特別な配慮を要する家庭 14 子どもの生活・生育環境とその影響 15 子どもの心の健康に関わる問題
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの保健
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	子どもの身体的な発育・発達と健康について理解する。また、子どもの健康管理のために、医学的な基礎知識を理解するとともに、疾病への適切な対応やその予防対策、他職種間の連携・協働について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の理解及び環境、衛生管理を理解する。
教科書	よくわかる子どもの保健　第3版
特記	
授業計画	1 子どもの保健の意義と目的 2 身体の発育と発達 3 生理機能、運動機能の発達と保健 4 子どもの精神（こころ）の保健 5 子どもを取り巻く生活環境と心身の保健 6 現代社会における子供の精神の健康とその課題 7 乳児期・幼児期の栄養 8 子どもの病気と異常　先天性・新生児 9 子どもの病気と異常　先天性・新生児② 10 子どもによくみられる症状とその対処法① 11 子どもによくみられる症状とその対処法② 12 子どもの病気予防 13 緊急時の対応法 14 施設等における健康と安全実施体制 15 母子保健行政
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽表現技術
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノ・声楽を通じ、鍵盤奏法や歌の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。
授業の進め方	演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏や童謡を歌うことができる。
教科書	音楽教本、声楽教本
特記	
授業計画	1 ヘ長調のピアノと歌① 2 ヘ長調のピアノと歌② 3 ヘ長調のピアノと歌③ 4 ヘ長調のピアノと歌④ 5 ニ長調のピアノと歌① 6 ニ長調のピアノと歌② 7 ニ長調のピアノと歌③ 8 ニ長調のピアノと歌④
成績評価方法 (試験実施方法)	実技試験、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と造形表現
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	物を作る活動・表現行為の中から、創作（表現）の喜びを味わう。また、保育者としての援助のあり方・教材研究などの基礎を学ぶための演習として、折り紙・製作・絵画などの手法を用いて、それらのものを体感することを目標とする。
授業の進め方	テキストによる講義と課題提出により、知識の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要となる造形の知識・技術を身に付け、様々な素材を活かした製作ができる。
教科書	図画工作
特記	
授業計画	1 デッサン（自画像） 2 工作（行事に合った） 3 絵の具とクレヨンを使った絵画 4 お面制作 5 ペンを使った絵画（細密画） 6 自然物を使った制作 7 工作（廃材使用） 8 マーブリング
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、課題（制作物）により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と健康
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」について学ぶ。乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の基礎として何が必要であるか、そして発育・発達のために保育者としてどのように援助するべきかについての視点とかかわり方を演習を通して具体的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	健康に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「健康」のねらい及び内容 2 保育所実習のねらい及び内容（1歳以上3歳未満児） 3 保育所実習のねらい及び内容（3歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と領域「健康」 5 発育・発達援助（体を使って遊ぶ） 6 食育の基本、計画、環境 7 事故防止及び安全 8 保育所保育指針　領域「健康」総括
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅰ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、保育所・乳児院・家庭の現状を把握し、それらの果たす役割、担当する保育者としての役割を理解する。事例をもとに、保育士として必要な乳児保育の理論・知識、乳児期における大人の役割等を理解し保育現場での具体的課題を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	乳児期における発育・発達を理解し、技術を習得する。
教科書	はじめて学ぶ乳児保育
特記	
授業計画	1 乳児保育の理念と歴史、役割 2 保育所における乳児保育の現状と課題 3 児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育の現状と課題 4 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育の現状と課題 5 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」 6 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」 7 情緒的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」 8 乳児期の環境と人間関係 9 乳児期の全体的な計画と指導計画① 10 乳児期の全体的な計画と指導計画② 11 乳児保育の保育技術①　食事　沐浴 12 乳児保育の保育技術　排泄 13 職員間の連携・協働 14 保護者との連携・協働 15 自治体や地域の関係機関との連携・協働
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	乳児保育Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。乳児保育の計画、環境構成、記録等について具体的に理解し、乳児が安全と情緒の安定を図るための配慮について具体的に学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識の定着を図る。
達成目標	乳児保育の現状・課題を理解し、指導計画を作成できるようにする。
教科書	はじめて学ぶ乳児保育
特記	
授業計画	1 乳児保育の重要性 2 乳児保育における基本的知識と援助 3 乳児期の発達 4 グループ演習　0･1･2歳児の発達と保育内容 5 ことばの発達と保育者の対応 6 保育者と保護者との連携と子育て支援 7 発達の遅れと向き合う 8 沐浴人形を使用しての実践、実技試験
成績評価方法 （試験実施方法）	実技試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	障害児保育
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	障害児及び特別な配慮を要する子どもの保育や家庭について理解した上で、具体的な援助の方法、環境構成、保育計画について理解を深める。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	障害のある子どもを理解し、保育がい児保育に関する援助の方法を学び、保育計画を作成できるようにする。
教科書	よくわかる障害児保育　第2版
特記	
授業計画	1 障害のある子どもの保育の方法 2 遊び・集団活動への方法 3 基本的生活習慣の援助 4 個別援助集団援助のまとめ 5 障害のある子どもの保育と指導計画 6 総合保育の指導計画の作成・個別の指導計画 7 指導計画から評価までのまとめ 8 障害のある子どもの保護者への支援
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児への特別な支援
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及び特別な配慮を要する子どもの保育や家庭の支援について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	障害についての基本的知識を理解し、障害児保育に関する方法を学ぶ。
教科書	よくわかる障害児保育　第２版
特記	
授業計画	1 障害のある子どもの保育の考え方 2 障害のある子どもの発達 3 対象別に見た障害の理解（肢体不自由・知的障害） 4 対象別に見た障害の理解（広汎性発達障害） 5 対象別に見た障害の理解（ADHD　LD） 6 対象別に見た障害の理解（運動障害、聴覚障害他） 7 対象別の障害等のまとめ 8 気になる子どもの理解
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会的養護Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	社会的養護施設の機能と役割、また施設保育者の役割と意義を学ぶ。自立支援計画や用語の理解、子ども虐待の防止と家庭支援について知識を深める。
教科書	新基本保育シリーズ⑥　社会医的養護Ⅰ
特記	
授業計画	1 児童の権利擁護　児童の最善の利益について考える 2 里親制度の特性と養育の実際 3 乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの状況と支援の実際 4 ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際 5 障害児施設の療育と支援の実際 6 自立支援計画　子どもへの支援における記録について 7 虐待された子どもと家族への支援 8 施設と家族との関わりと地域との連携
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、授業への参加姿勢、提出物により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	劇あそび（指導法）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏、踊る）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。
授業の進め方	演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考える。また、子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身に付ける。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 領域「表現」のねらいと内容 2 身ぶり表現の発達 3 身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方 4 「劇あそび」の意義と役割 5 「劇あそび」における援助 6 「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成 7 グループ発表と鑑賞・振り返り 8 表現を育てる保育・試験
成績評価方法 (試験実施方法)	実技試験、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽（理論）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	音楽理論の基礎を学習する。楽譜の読み方、音程、音階、和音、こどもにとっての音楽の必要性などを学び、音楽の基礎的な力を身に付ける。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	保育者として必要な音楽理論、和音やコードを理解し、身に付ける。
教科書	音楽（理論）
特記	
授業計画	1 楽譜の基礎知識 2 鍵盤、記号の基礎知識 3 音符や休符のリズムについて 4 拍子、弱起 5 速度標語 6 音程① 7 音程② 8 長音階 9 短音階 10 五度円 11 調合、調の相互関係 12 移調と転調 13 和音① 14 和音② 15 伴奏パターン
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	図画工作Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	物を作る活動・表現行為の中から、創作（表現）の喜びを味わう。また、保育者としての援助のあり方・教材研究などの基礎を学ぶための演習として、折り紙・製作・絵画などの手法を用いて、それらのものを体感することを目標とする。
授業の進め方	テキストによる講義と課題提出により、知識の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要となる造形の知識・技術を身に付け、様々な素材を活かした製作ができる。
教科書	図画工作
特記	
授業計画	1 絵の具を使った絵画① 2 絵の具を使った絵画② 3 デッサン（静物） 4 水彩技法（にじみ絵） 5 工作（廃材使用）① 6 工作（廃材使用）② 7 絵の具を使った絵画③ 8 デッサン（人物クロッキー）
成績評価方法 (試験実施方法)	課題（制作物）、授業への参加姿勢により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習事前事後指導（保育）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。実習の意義・目的、実習内容並びに実習日誌の書き方、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導として、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。
授業の進め方	演習及びグループワークにて、保育所実習の準備・振り返りを行う。
達成目標	保育実習の意義、計画、実践、観察、記録、評価について理解し、実習に向けての目標設定を行う。
教科書	知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	
授業計画	1 保育実習の概要・意義・目的 2 保育所における保育実習内容の理解 3 実習におけるプライバシー保護と守秘義務 4 実習マナー 5 実習計画について 6 実習日誌の記録の取り方 7 事後指導（総括・反省・自己評価） 8 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業コマ数	
授業概要	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務、関連職員との連携について理解を深める。実践を通じて保育内容や環境への理解、保育計画と記録の重要性への理解を深める。
授業の進め方	保育所にて実習を行う。
達成目標	保育所での実習を通して子どもの保育及び保育者支援について総合的に理解する。
教科書	知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	「実務経験のある教員による授業科目」に対応
授業計画	1 保育所の役割と機能 (1)保育所の生活と一日の流れ (2)保育所保育指針の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと環境構成 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価、レポートにより評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育実習事前事後指導
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	教育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。実習の意義・目的、実習内容並びに実習日誌の書き方、乳幼児保育の理解、実習生としての基本的な心構えや姿勢を習得する。また、事後指導として、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。
授業の進め方	演習及びグループワークにて、教育実習の準備・振り返りを行う。
達成目標	教育実習の意義、実習の計画・実際・記録・評価について理解し、実習に向けての目標設定を行う。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 教育実習の概要・意義・目的 2 幼稚園における教育実習内容の理解 3 実習におけるプライバシー保護と守秘義務 4 実習マナー 5 実習計画について 6 実習日誌の記録の取り方 7 事後指導（総括・反省・自己評価） 8 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育実習
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習（実務経験のある教員による授業科目です）
授業時間	８０時間
授業コマ数	
授業概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を高めながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とし、第一回目の実習では、観察・参加実習、部分実習を主とする
授業の進め方	幼稚園にて実習を行う。
達成目標	幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	「実務経験のある教員による授業科目」に対応
授業計画	1 幼稚園の役割と機能 (1)幼稚園の生活と1日の流れ (2)幼稚園教育要領の理解と保育の展開 2 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと環境構成 (4)子どもの健康と安全 4 保育の計画、観察、記録 (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての幼稚園教諭の役割と職業倫理 (1)幼稚園教諭の業務内容 (2)教職間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価、レポートにより評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育相談
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	個性の伸長や人格の成長を支援する教育相談につい理解するとともに、幼児、児童の発達の状況に即しつつ個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの基礎的知識・理論を身につける。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	幼児が生活する保育現場での必要な教育相談技術の基礎・基本を理解し、子どもや親に対する教育相談が実践できるようになる。
教科書	子育てカウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～
特記	
授業計画	1 教育相談の在り方と意義 2 保護者・子どもに対する援助の姿勢とカウンセリングマインド 3 乳児期・幼児期の発達理解と支援 4 子ども同士のいざこざや仲間に入れない子どもの理解と対応 5 保育所・幼稚園における実際の保育と幼児理解の方法 6 親子の関係づくりの支援・要望する保護者の実態 7 子どもの発達とアセスメント 8 カウンセリングの基礎理論 9 カウンセリング技法 10 幼児及び児童、保護者に対する教育相談を行うための組織・体制づくり 11 発達障害や気になる子ども（不登校･虐待等）とその保護者へのかかわり 12 園における教育相談の計画・組織 13 保育におけるコンサルーション 14 園・地域における専門家との連携 15 保育者の専門性と相談活動
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	日本国憲法
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	日本国憲法の意義、特質を理解し、基本原理について学ぶ。なかでも基本的人権と統治機構について理解を深め、日本国憲法の全体像について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	日本国憲法の意義や原理を理解する。
教科書	日本国憲法
特記	
授業計画	1 憲法の概念、分類 2 日本国憲法の特徴 3 人権と公共の福祉 4 基本的人権①（包括的基本権） 5 復習（憲法の概念、特徴、歴史） 6 基本的人権②（精神的自由権） 7 基本的人権③（経済的自由権） 8 基本的人権④（社会権・生存権・その他権利） 9 復習（基本的人権） 10 統治機構、国会①（国会の地位） 11 国会②（構成、活動、権能、議員の権能・特権） 12 内閣の地位、組織、職務 13 司法権の意味、限界 14 司法権の帰属、独立 15 復習（統治機構）
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育見学実習
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	実際の保育教育現場の体験を通じて、保育園の一日の流れや施設の役割、保育者の役割、また子どもの発達を理解し、実習に向けての目標を明確にする。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	保育者の役割を知り、自らの課題を明確にし、実習にむけた目標を立てる。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 保育見学実習オリエンテーション 2 保育園の一日の流れ、保育士の役割の理解 3 養護と教育を一体的に行う保育への理解 4 実習日誌の理解、実習生の気づきとは 5 子どもにとっての遊び、環境の理解 6 保育園見学実習　観察　保育園の一日の流れの理解 7 保育園見学実習　観察　保育園の一日の流れの理解 8 保育園見学実習　観察　保育園の一日の流れの理解 9 保育園見学実習　観察　保育園の一日の流れの理解 10 保育園見学実習　体験　子どもとの関わり 11 保育園見学実習　体験　子どもとの関わり 12 保育園見学実習　体験　子どもとの関わり 13 保育園見学実習　体験　子どもとの関わり 14 保育実習にむけての課題設定 15 振り返り　発表形式での実施
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	レクリエーション演習
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	４０時間
授業コマ数	２０コマ
授業概要	レクリエーションについて理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学習し、演習を通して、その在り方や、主体的に活動を起こす具体的な展開方法などを身に付ける。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	レクリエーション計画案の立案及び実践により、レクリエーション技術を習得する。
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～
特記	
授業計画	1 レクリエーション支援の方法（信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ） 2 レクリエーション支援の方法（良好な集団作りの方法・アイスブレーキング） 3 レクリエーション支援の方法（自主的・主体的に楽しむ力を高める展開法のプログラム） 4 レクリエーション活動の習得（モデルプログラムの習得①） 5 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得①） 6 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得②） 7 レクリエーション活動の習得（モデルプログラムの習得②） 8 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得③） 9 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得④） 10 レクリエーション活動の習得（モデルプログラムの習得③） 11 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得⑤） 12 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得⑥） 13 レクリエーション活動の習得（モデルプログラムの習得④） 14 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得⑦） 15 レクリエーション活動の習得（レクリエーション活動の習得⑧） 16 レクリエーション支援の実施（プログラムの実施と評価①） 17 レクリエーション支援の実施（プログラムの実施と評価②） 18 レクリエーション支援の実施（プログラムの実施と評価③） 19 レクリエーション支援の実施（プログラムの実施と評価④） 20 まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽Ⅱ（器楽・声楽）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１００時間
授業コマ数	５０コマ
授業概要	音楽を通し、表現による情操を養うことを目的として、ピアノ・声楽を通じ、鍵盤奏法や歌の技術を習得する。また、保育現場で必要な鍵盤楽器の基礎的な知識及び技術などを学ぶとともに、入学以前の音楽経験に応じた個々の技術レベルに沿った学習を行なう。
授業の進め方	演習にて、技術の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏や童謡を歌うことができる。
教科書	音楽教本、声楽教本
特記	
授業計画	1 リズム⑥　ソルフェージュ⑥ 2 リズム⑦　ソルフェージュ⑦ 3 リズム⑧　ソルフェージュ⑧ 4 リズム⑨　ソルフェージュ⑨ 5 リズム⑩　ソルフェージュ⑩ 6 コールユーブンゲン⑯　コンコーネ⑥ 7 コールユーブンゲン⑰　コンコーネ⑦ 8 コールユーブンゲン⑱　コンコーネ⑧ 9 コールユーブンゲン⑲　コンコーネ⑨ 10 コールユーブンゲン⑳　コンコーネ⑩ 11 コールユーブンゲン㉑　季節の歌⑪ 12 コールユーブンゲン㉒　季節の歌⑫ 13 コールユーブンゲン㉓　季節の歌⑬ 14 コールユーブンゲン㉔　季節の歌⑭ 15 コールユーブンゲン㉕　季節の歌⑮ 16 季節の歌⑯　生活の歌⑥ 17 季節の歌⑰　生活の歌⑦ 18 季節の歌⑱　生活の歌⑧ 19 季節の歌⑲　生活の歌⑨ 20 季節の歌⑳　生活の歌⑩ 21 基本奏法　バイエル⑯ 22 基本奏法　バイエル⑰ 23 基本奏法　バイエル⑱ 24 基本奏法　バイエル⑲ 25 基本奏法　バイエル⑳ 26 基本奏法　バイエル㉑ 27 基本奏法　バイエル㉒ 28 基本奏法　バイエル㉓ 29 基本奏法　バイエル㉔ 30 基本奏法　バイエル㉕ 31 基本奏法　バイエル㉖ 32 基本奏法　バイエル㉗ 33 基本奏法　バイエル㉘ 34 基本奏法　バイエル㉙ 35 基本奏法　バイエル㉚ 36 基本奏法　季節の曲⑯ 37 基本奏法　季節の曲⑰ 38 基本奏法　季節の曲⑱ 39 基本奏法　季節の曲⑲ 40 基本奏法　季節の曲⑳ 41 基本奏法　季節の曲㉑ 42 基本奏法　季節の曲㉒ 43 基本奏法　季節の曲㉓ 44 基本奏法　季節の曲㉔ 45 基本奏法　季節の曲㉕ 46 基本奏法　季節の曲㉖ 47 基本奏法　季節の曲㉗ 48 基本奏法　季節の曲㉘ 49 基本奏法　季節の曲㉙ 50 基本奏法　季節の曲㉚、実技試験
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実技試験にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	合同PRⅡ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	３学年合同の授業を行い、グループ毎に遊びを計画し、指導案を立て、現場で実践する。また、全員で一つの行事を計画、準備、実行する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	遊びがどのように準備され、展開されていけばいいのかを話し合って指導案を立て、計画に合わせて必要なものを準備したり、自分の役割を明確にし積極的に取り組む。
教科書	
特記	
授業計画	1 3学年でのレクリエーション 2 遊びの計画①内容について 3 遊びの計画①指導案作成 4 遊びの計画①準備物用意 5 遊びの計画①実践、振り返り 6 遊びの計画②内容について 7 遊びの計画②指導案作成 8 遊びの計画②準備物用意 9 遊びの計画②実践、振り返り 10 行事の計画　内容について 11 行事の計画　指導案作成 12 行事の計画　準備物用意・劇の練習 13 行事の計画　準備物用意・劇の練習 14 行事の計画　リハーサル 15 行事の計画　実践、振り返り、まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	遊びの研究Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	２年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	演習を交えながら幼児の年齢に応じた遊びの方法（歌、集団遊び、野外遊びなど）を学習し、自ら指導案を立て実践する。また四季を感じさせる製作について、その製作の方法を知り、演習を通して実践する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	子どもの年齢に応じた遊びを実践し、集団ゲームや音楽遊び、製作遊びなどのレパートリーを増やし、その時の保育者のねらいや配慮を理解する。
教科書	
特記	
授業計画	1 年齢に応じたあそび（製作あそび）① 2 年齢に応じたあそび（製作あそび）② 3 年齢に応じたあそび（製作あそび）の振り返り、保育者の配慮 4 製作あそびの指導案作成 5 指導案の実践と振り返り 6 年齢に応じたあそび（集団あそび）① 7 年齢に応じたあそび（集団あそび）② 8 年齢に応じたあそび（集団あそび）③ 9 年齢に応じたあそび（集団遊び）の振り返り、保育者の配慮 10 集団遊びの指導案作成 11 指導案の実践と振り返り 12 季節の遊び①（自然物遊びの重要性について） 13 季節の遊び②（自然物遊び） 14 季節の遊び③（自然物遊び） 15 季節の遊びの指導案作成と実践
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	ビジネス教養Ⅲ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	読解力・作文能力、またビジネスマナーを養い、社会人として、また保育者として正しい日本語の使い方を習得する。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	社会人として求められる基本的なスキル及び一般常識を習得する。
教科書	オリジナルテキスト・レジュメ
特記	
授業計画	1 敬語の使い方① 2 敬語の使い方② 3 敬語の使い方③ 4 社会人としての話し方スキル① 5 社会人としての話し方スキル② 6 社会人としての話し方スキル③ 7 コミュニケーション① 8 コミュニケーション② 9 文章の読み取り（保育時事）① 10 文章の読み取り（保育時事）② 11 文章の読み取り（保育時事）③ 12 一般常識支援① 13 一般常識支援② 14 一般常識支援③ 15 復習（敬語、話し方、文章読解）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	就職実務Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	６０時間
授業コマ数	３０コマ
授業概要	就職希望先を決定し、試験対策を行う。
授業の進め方	テキストによる講義と演習により、知識の定着を図る。
達成目標	就職に対する知識を身に付ける。
教科書	就職ガイドブック、就職ノートブック
特記	
授業計画	1 履歴書作成① 2 履歴書作成② 3 履歴書作成③ 4 履歴書作成④ 5 履歴書作成⑤ 6 履歴書作成⑥ 7 履歴書作成⑦ 8 挨拶・お辞儀・入退室 9 面接練習① 10 面接練習② 11 面接練習③ 12 面接練習④ 13 面接練習⑤ 14 模擬面接① 15 面接練習⑥ 16 面接練習⑦ 17 作文① 18 作文② 19 作文③ 20 応募書類の準備 21 電子メール 22 封筒の作成 23 電話対応① 24 模擬面接② 25 就職体験談 26 礼状の作成 27 ビジネスマナー① 28 ビジネスマナー② 29 ビジネスマナー③ 30 ビジネスマナー④
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子ども家庭支援論
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、子ども家庭支援の現状や課題について学ぶ。子育て家庭のニーズを理解し、保育士として専門性を生かした多様な支援の展開や関係機関との連携について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子ども家庭支援の意義や役割及び支援体制について理解し、支援の展開と関係機関との連絡について理解する。
教科書	新・基本保育シリーズ5　子ども家庭支援論
特記	
授業計画	1 子ども家庭支援の意義と必要性 2 子ども家庭支援の目的と機能 3 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進 4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5 保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 6 子どもの育ちの喜びの共有 7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 8 保育士に求められる基本的態度 9 家庭の状況に応じた支援 10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 11 子ども家庭支援の内容と対象 12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13 地域の子育て家庭への支援 14 要保護児童等及びその家庭に対する支援 15 子育て支援に関する課題と展望
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育の心理学
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解し、子どもへの理解を深める。養護及び教育の一体性、発達に即した援助を学び、乳幼児期の子どもの学びの課程、特性を踏まえた人との相互的関わりや体験、環境の意義を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの発達にかかわる心理に関する基礎知識を習得し、学びの課程や特性により人とのかかわりの重要性について理解する。
教科書	「発達心理学」周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか
特記	
授業計画	1 子どもの発達を理解することの意義 2 子どもの発達と環境 3 発達理論と子ども観・保育観 4 保育実践を評価する 5 社会情動的発達①自我 6 社会情動的発達②他社 7 社会情動的発達③他者とのかかわり 8 身体的機能と運動機能の発達 9 認知の発達 10 数の認識の発達 11 言語の発達 12 乳幼児期の学びに関わる理論 13 乳幼児期の学びの過程と特性①社会情動的学び 14 乳幼児期の学びの過程と特性②認知的学び 15 乳幼児期の学びを支える保育
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの食と栄養
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	養護及び教育の一体性を踏まえた子どもの食生活、栄養に関する基本的知識を体系的に理解するとともに、特に保育の実際との関連において実践的な知識・理解を深める。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの食生活、栄養に関する知識を習得する。
教科書	新　保育ライブラリ　子どもの食と栄養　新版
特記	
授業計画	1 子どもの心身の健康と食生活 2 子どもの栄養の特徴 3 栄養素の種類　炭水化物、脂質 4 栄養素の種類　たんぱく質、水分代謝 5 栄養素の種類　ビタミン、ミネラル 6 食生活指針、特別な配慮が必要な子どもの栄養 7 食育 8 乳児期の授乳栄養について 9 調乳実習 10 離乳栄養について 11 離乳食実習 12 幼児期の栄養について 13 幼児食実習 14 小児期の食生活について 15 間食、手洗いに関する実験 16 試験
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と言葉
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う領域「言葉」について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	言葉に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	子どもと言葉＜新訂第２版＞
特記	
授業計画	1 人の生活と言葉 2 乳幼児期の言葉の発達 3 領域「言葉」のねらいと内容 4 領域「言葉」の具体的な内容 5 言葉かけを中心としての援助とかかわり 6 児童文化材を通しての援助とかかわり① 7 児童文化材を通しての援助とかかわり② 8 言葉の育ち（言語発達）をとらえる視点
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子どもの健康と安全
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ感染症対策や体調不良等に対する対応方法、衛生管理並びに安全管理等を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの健康、事故予防、疾病対策、安全管理について理解する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 子どもの健康と保育にかかわる保健活動 2 子どもの健康観察方法 3 心身の発育・発達を促す保健活動 4 心の健康問題や地域保健活動 5 事故防止及び健康安全管理　事故 6 子どもの一時救命処置 7 感染症の予防と対策 8 子どもの健康及び安全の管理に関する社会的資源との連携
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	子育て支援
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援とその実際を実践事例等を通して具体的に理解する。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	保育相談支援の具体的支援方法及び技法を習得する。
教科書	新・基本保育シリーズ６　社会的養護Ⅰ
特記	
授業計画	1 子どもの保育とともに行う保護者の支援 2 支援の計画と環境の構成 3 職員間の連携・協働 4 社会的資源の活用と自治体・関連機関や専門職との連携・協働 5 保育所等における支援 6 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 7 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 8 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と人間関係
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児が他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う領域「人間関係」について学ぶ。演習を通して乳幼児の遊びや生活全体を通して「豊かな人間関係」や「身近な人と気持ちが通じ合う心」を育むための保育士の留意点や配慮すべき事項を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	領域「人間関係」に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	幼児と人間関係－幼稚園教諭・保育士をめざす－
特記	
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「人間関係」のねらい及び内容 2 保育所実習のねらい及び内容（1歳以上3歳未満児） 3 保育所実習のねらい及び内容（3歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と領域「人間関係」 5 領域「人間関係」事例研究 6 遊びを通した人間関係理解①（室内遊びの実践と記録） 7 遊びを通した人間関係理解②（室内遊びの振り返りと発表） 8 保育所保育指針　領域「人間関係」総括
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	幼児と環境
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	乳幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う領域「環境」について学ぶ。乳幼児が遊びを通して環境と主体的・直接的に関わることにより、生きる力を獲得していくことを理解し、その環境の中で子どもの遊びとは何か、を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	子どもの環境に関する保育内容について理解及び実践を行う。
教科書	新しい保育講座　保育内容「環境」
特記	
授業計画	1 保育所保育指針「保育の目標」と領域「環境」のねらい及び内容 2 保育所保育指針のねらい及び内容（1歳以上3歳未満児） 3 保育所保育指針のねらい及び内容（3歳以上児） 4 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と領域「人間関係」 5 室内における子どもの環境設定と援助 6 遊びにおける子どもの環境設定と援助 7 行事おける子どもの環境設定と援助 8 保育所保育指針　領域「環境」グループ討議
成績評価方法 （試験実施方法）	レポート、試験、授業への参加姿勢、提出物により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習事前事後指導（施設）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育実習指導(保育）を踏まえ、児童福祉施設実習に対する基本的な事項の確認と新たな実習課題の決定、課題達成に必要な準備を行なう。また、事後指導としては、実習体験に基づきグループ討議等を行い、施設に対する認識を深めると同時に、実習態度を振り返り、改善すべき点を見出す。
授業の進め方	演習及びグループワークにて、施設実習の準備・振り返りを行う。
達成目標	保育実習の意義、計画、実践、観察、記録、評価について理解し、実習に向けての目標設定を行う。
教科書	知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	
授業計画	1 児童福祉施設における実習内容の理解 2 実習における子どもの人権と最善の利益 3 実習におけるプライバシー保護と守秘義務 4 実習マナー 5 実習計画に基づく保育実践 6 実習日誌の記録の取り方 7 事後指導（総括・反省・自己評価） 8 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	施設実習
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業コマ数	
授業概要	児童福祉施設等の生活に参画し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。子どもの心身の状況に応じた対応、生活環境への理解を深め、専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ。また、実習を通して支援計画、記録の重要性を理解する。
授業の進め方	児童福祉施設等で実習を行う。
達成目標	児童福祉施設等での実習を通して子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。
教科書	知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	「実務経験のある教員による授業科目」に対応
授業計画	1 施設の役割と機能 （1）施設における子どもの生活と保育士の支援や関わり （2）施設の役割と機能 2 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録 （2）個々の状態に応じた援助やかかわり 3 施設における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助 （2）子どもの心身の状態に応じた対応 （3）子どもの活動と生活と環境 （4）健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録 （1）支援計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5 専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理
成績評価方法 （試験実施方法）	実習内容・実習簿評価、レポートにより評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習Ⅱ
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業コマ数	
授業概要	保育所において、更に乳幼児への理解、保育士の職務、関連職員との連携等への理解を深める。実習では参加実習や部分実習、指導実習の段階を経て実践力を身につけ、責任実習を行なう。保育計画と指導計画、日案の理解と実践、乳幼児保育の担当、保育士としての役割･技術などを習得する。
授業の進め方	保育所にて実習を行う。
達成目標	保育実習Ⅰの保育実践及び振り返りを踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。
教科書	知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	「実務経験のある教員による授業科目」に対応
授業計画	1 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2 観察に基づく保育理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の動きや実践の観察 （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解 （2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （3）地域社会との連携 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1）保育過程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己の課題の明確化
成績評価方法 （試験実施方法）	実習内容・実習簿評価、レポートにより評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育実習Ⅱ事前事後指導
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	保育実習事前事後指導(保育）を踏まえ、乳幼児に対するさらなる理解を深める。さらに演習を通して保育所の意義と社会的役割を理解し、保育士を志すものとして自覚を高める。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	保育実習の意義を再度理解し、保育実習Ｉの反省を踏まえ、保育実践力の向上を図る。実習の総括・自己評価により、保育に対する課題や認識を明確化する。
教科書	知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド（新訂）
特記	
授業計画	1 復習（保育実習の概要、意義・目的） 2 実習に向けての自己課題設定 3 保育士の職業倫理についての理解 4 事例：子どもの状態に応じた適切な関り 5 実習計画案作成 6 実習日誌の記録の取り方 7 事後指導（総括・反省・自己評価） 8 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況により評価する。 60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育実習Ⅱ
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	実習
授業時間	８０時間
授業コマ数	
授業概要	保育所において、更に乳幼児への理解、保育士の職務、関連職員との連携等への理解を深める。実習では参加実習や部分実習、指導実習の段階を経て実践力を身につけ、責任実習を行なう。保育計画と指導計画、日案の理解と実践、乳幼児保育の担当、保育士としての役割･技術などを習得する。
授業の進め方	幼稚園にて実習を行う。
達成目標	教育実習の実践及び振り返りを踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。
教科書	幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド
特記	**「実務経験のある教員による授業科目」に対応**
授業計画	1 幼稚園教育の理解 2 観察に基づく保育理解 （1） 子どもの心身の状態や活動の観察 （2） 教師の動きや実践の観察 （3） 幼稚園の生活の流れや展開の把握 3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1） 環境を通して行う保育、生活や遊びを通しての総合的に行う保育の理解 （2） 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （3） 地域社会との連携 4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1） 保育過程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2） 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5 保育士の業務と職業倫理 （1） 多様な保育の展開と保育士の業務 （2） 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6 自己の課題の明確化 (2)教職間の役割分担や連携 (3)幼稚園教諭の役割と職業倫理
成績評価方法 (試験実施方法)	実習内容・実習簿評価、レポートにより評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保育・教職実践演習
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３２時間
授業コマ数	１６コマ
授業概要	保育・教職に関する教科目及び実習等の経験を踏まえ、自らの学びを振り返る。グループ討議や研究発表形式により様々な視点から今後の保育の課題等について学習すると同時に、自己の課題を明確にし、目指す保育者像や今後に向けた自己の取り組みについて考える。
授業の進め方	テキストによる講義とグループワークによる演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	自らの学びを振り返り保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術の習得を確認する。
教科書	オリジナルテキスト
特記	
授業計画	1 保育者としての自己分析 2 保育者としての社会的使命と役割 3 保育者としての教育的愛情 4 保育・教育職の意義と職務内容 5 家庭・地域社会との連携 6 こども・保育者との信頼関係の構築 7 保育におけるこども理解について 8 園の安全管理について① 9 園の安全管理について② 10 ドキュメンテーション①子どもの発達・思いの可視化 11 ドキュメンテーション②子どもの発達・思いの可視化 12 保育に必要なコミュニケーション能力(保護者への対応①) 13 保育に必要なコミュニケーション能力(保護者への対応②) 14 行事運営のポイントと留意点 15 行事運営の企画 16 理想の保育士像について発表・まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	レポート、授業への参加姿勢、課題（発表）により評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	教育実習事前事後指導Ⅱ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	前期
科目区分	必修
授業方法	講義
授業時間	１６時間
授業コマ数	８コマ
授業概要	教育実習を円滑に進めるための知識・技術・態度について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義とレポート・試験により、知識の定着を図る。
達成目標	教育実習の意義を理解し、実習に向けての目標設定を行う。実習の計画・実際・記録・評価について理解し、自信をもって実習に取り組めるようにする。
教科書	これからの時代の保育者養成・実習ガイド
特記	
授業計画	1 復習（教育実習の概要・意義・目的） 2 実習に向けての自己課題設定 3 保育士・幼稚園教諭の専門性を踏まえた実習について 4 子どもの状態に応じた適切なかかわりについて 5 実習計画について 6 実習日誌の記録の取り方 7 事後指導（総括・反省・自己評価） 8 事後指導（課題・学習目標）
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、提出物、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	音楽Ⅲ（弾き歌い）
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	９０時間
授業コマ数	４５コマ
授業概要	音楽ⅠⅡで学んだ技術を生かし、即興演奏法を身につけ、コードによる伴奏や楽曲の創作等ができるように、技術力の向上を目指す。また、弾き歌いを通し、保育者の基本技能を身につける。
授業の進め方	演習にて、技術の定着を図る。
達成目標	保育現場で必要とされるピアノ演奏や童謡を歌うことができる。
教科書	簡易ピアノ伴奏による 実用版 こどものうた大集合 最新版
特記	
授業計画	1 弾き歌い課題① 2 弾き歌い課題② 3 弾き歌い課題③ 4 弾き歌い課題④ 5 弾き歌い課題⑤ 6 弾き歌い課題⑥ 7 弾き歌い課題⑦ 8 弾き歌い課題⑧ 9 弾き歌い課題⑨ 10 弾き歌い課題⑩ 11 弾き歌い課題⑪ 12 弾き歌い課題⑫ 13 弾き歌い課題⑬ 14 弾き歌い課題⑭ 15 弾き歌い課題⑮ 16 弾き歌い課題⑯ 17 弾き歌い課題⑰ 18 弾き歌い課題⑱ 19 弾き歌い課題⑲ 20 弾き歌い課題⑳ 21 弾き歌い課題㉑ 22 弾き歌い課題㉒ 23 弾き歌い課題㉓ 24 弾き歌い課題㉔ 25 弾き歌い課題㉕ 26 弾き歌い課題㉖ 27 弾き歌い課題㉗ 28 弾き歌い課題㉘ 29 弾き歌い課題㉙ 30 弾き歌い課題㉚ 31 弾き歌い課題㉛ 32 弾き歌い課題㉜ 33 弾き歌い課題㉝ 34 弾き歌い課題㉞ 35 弾き歌い課題㉟ 36 弾き歌い課題㊱ 37 弾き歌い課題㊲ 38 弾き歌い課題㊳ 39 弾き歌い課題㊴ 40 弾き歌い課題㊵ 41 弾き歌い課題㊶ 42 弾き歌い課題㊷ 43 弾き歌い課題㊸ 44 弾き歌い課題㊹ 45 実技試験
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実技試験にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	合同PRⅢ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	３学年合同の授業を行い、グループ毎に遊びを計画し、指導案を立て、現場で実践する。また、全員で一つの行事を計画、準備、実行する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	３学年をまとめる役割を自覚し、それぞれの意見を尊重しながら、計画、準備を進めていき、リーダーとしての資質を培う。
教科書	
特記	
授業計画	1 3学年でのレクリエーション 2 遊びの計画①内容について 3 遊びの計画①指導案作成 4 遊びの計画①準備物用意 5 遊びの計画①実践、振り返り 6 遊びの計画②内容について 7 遊びの計画②指導案作成 8 遊びの計画②準備物用意 9 遊びの計画②実践、振り返り 10 行事の計画　内容について 11 行事の計画　指導案作成 12 行事の計画　準備物用意・劇の練習 13 行事の計画　準備物用意・劇の練習 14 行事の計画　リハーサル 15 行事の計画　実践、振り返り、まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	遊びの研究Ⅲ
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	演習を交えながら幼児の年齢に応じた遊びの方法（歌、集団遊び、野外遊びなど）を学習し、自ら指導案を立て実践し、またその時の保育所の配慮やねらいについて理解し展開していく。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	子どもの年齢に応じた遊びを実践し、集団ゲームや音楽遊び、製作遊びなどのレパートリーを増やし、その時の保育者のねらいや配慮を理解し、自らも遊びの展開が出来る。
教科書	
特記	
授業計画	1 自然環境を活かした遊び 2 自然観察のポイント（春） 3 演習① 4 演習② 5 演習③ 6 散策マップの作成 7 自然環境とのかかわり方（秋） 8 自然観察のポイント（秋） 9 演習① 10 演習② 11 演習③ 12 指導案作成 13 自然物を活かした製作① 14 自然物を活かした製作② 15 自然物を活かした製作③
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	日赤幼児安全支援法
実務家教育授業	○
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	２４時間
授業コマ数	１２コマ
授業概要	こどもを大切に育てるために、幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看病のしかたなどの知識と技術を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義・演習にて、知識の定着を図る。
達成目標	幼児安全法支援員資格を取得する。
教科書	赤十字幼児安全法講習（11版）
特記	
授業計画	1 赤十字幼児安全法について 2 子どもの成長発達と事故予防 3 子どもの応急手当 4 子どもの病気と看病のしかた 5 地域の子育て支援 6 災害時の乳幼児支援 7 手当の基本① 8 手当の基本② 9 乳幼児一次救命処置① 10 乳幼児一次救命処置② 11 実技試験 12 筆記試験
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実技試験にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	卒業研究
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	通年
科目区分	必修
授業方法	演習
授業時間	９０時間
授業コマ数	４５コマ
授業概要	３年間の集大成として、個々にテーマを掲げ、課題研究として取り組み、レポート及び口頭発表により成果を残す。
授業の進め方	自身の設定した研究課題を元に、調査研究などを進めていく。
達成目標	自身の設定した研究課題に取り組み、発表を行う。
教科書	
特記	

授業計画				
	1	卒業研究オリエンテーション	31	研究経過中間報告
	2	課題意識の確認と研究の進め方	32	研究計画検討及び修正
	3	保育、教育現場の現状と課題	33	論文作成と進捗状況報告と修正①
	4	実習の振り返りと自己課題の理解	34	論文作成と進捗状況報告と修正②
	5	研究課題への取り組み方①	35	論文作成と進捗状況報告と修正③
	6	研究課題への取り組み方①	36	論文作成と進捗状況報告と修正④
	7	個人別研究課題の作成①	37	論文作成と進捗状況報告と修正⑤
	8	個人別研究課題の作成②	38	発表用パワーポイント作成①
	9	個人別研究課題の作成③	39	発表用パワーポイント作成②
	10	研究計画作成①	40	発表用パワーポイント作成③
	11	研究計画作成②	41	発表用パワーポイント作成④
	12	調査・研究／個別指導①	42	発表用パワーポイント作成⑤
	13	調査・研究／個別指導②	43	研究課題発表会リハーサル①
	14	調査・研究／個別指導③	44	研究課題発表会リハーサル②
	15	調査・研究／個別指導④	45	研修課題発表会
	16	調査・研究／個別指導⑤		
	17	研究計画検討及び修正①		
	18	研究計画検討及び修正②		
	19	保育・教育現場での調査・研究①		
	20	保育・教育現場での調査・研究②		
	21	保育・教育現場での調査・研究③		
	22	保育・教育現場での調査・研究④		
	23	保育・教育現場での調査・研究⑤		
	24	研究改革検討及び修正①		
	25	研究改革検討及び修正②		
	26	調査・研究／個別指導⑥		
	27	調査・研究／個別指導⑦		
	28	調査・研究／個別指導⑧		
	29	調査・研究／個別指導⑨		
	30	調査・研究／個別指導⑩		

成績評価方法 (試験実施方法)	提出物、授業態度、研究成果のプレゼンテーションに対する有識者の講評にて評価。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こども遊び専攻
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	演習を交えながら幼児の年齢に応じた遊びを学習する。
授業の進め方	演習により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育現場で特に求められている、絵本の読み聞かせ、紙芝居、人形劇等の製作から企画・発表まで行い実践的な指導ができるようになる事を目標とする。
教科書	
特記	
授業計画	1 子どもにとっての遊びとは 2 紙芝居体験 3 絵本の研究① 4 絵本の研究② 5 読み聞かせの技法① 6 読み聞かせの技法② 7 読み聞かせの技法③ 8 読み聞かせの技法④ 9 人形を作る① 10 人形を作る② 11 人形劇をする① 12 人形劇をする② 13 人形劇をする③ 14 五感の履歴書 15 昔話について
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況、レポートにて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こども音楽専攻
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	保育園・幼稚園で使用するリトミックや弾き歌い曲を習得する。
授業の進め方	演習により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	保育現場で特に求められている、実践的な音楽活動ができることを目標とする。
教科書	
特記	
授業計画	1 リトミックとは？ リトミック基礎①（拍手、拍） 2 リトミックとは？ リトミック基礎②（リズム、強弱と空間、即時反応） 3 1歳児のリトミック 4 2歳児のリトミック 5 3歳児のリトミック 6 4歳児のリトミック 7 5歳児のリトミック 8 合奏 9 生活曲①「おかたづけ」 10 生活曲①「おかたづけ」 11 生活曲②「ハッピー・バースデイ・トゥ・ユー」 12 季節曲① 13 季節曲② 14 季節曲③ 15 季節曲④
成績評価方法 （試験実施方法）	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こどもスポーツ専攻
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	子どもの心の成長と身体の成長を、スポーツを通じて引き出し、子どもたちにスポーツの楽しさを伝える知識と技術を学ぶ。
授業の進め方	演習により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	幼児体育の専門知識を学び、現場で活躍するスキルを身に付ける。
教科書	幼児体育指導者検定2･3級テキスト
特記	
授業計画	1 発育発達 2 幼児体育論 3 ボール遊び 4 リズム体操① 5 リズム体操② 6 マット① 7 マット② 8 なわとび 9 跳び箱① 10 跳び箱② 11 ボール 12 ゲーム遊び① 13 ゲーム遊び② 14 試験練習 15 試験
成績評価方法 (試験実施方法)	筆記試験、実技試験、授業への参加姿勢にて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。

授業概要（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	こども心理専攻
実務家教育授業	
学部・学科	保育福祉科
履修年次	３年次
開講学期	後期
科目区分	選択
授業方法	演習
授業時間	３０時間
授業コマ数	１５コマ
授業概要	心理学的、社会学的あるいは歴史的な子ども理解の一般的な方法を学ぶ。 演習に際しては、他の科目で修得した保育・教育についての知識・技能を利用して考える習慣を身につける。
授業の進め方	講義・演習により実践的な知識を学ぶ。
達成目標	具体的な事例を通して、乳幼児期からの子どもの多様性について、理解を深める方法を知り、活用することができる。保育者・教員として子どもの成長に携わる者の持つべき実践的態度を身につける。
教科書	エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学
特記	
授業計画	1 なぜ、子ども理解が必要なのか。 2 子ども理解の方法① 3 子ども理解の方法② 4 子ども理解の方法③ 5 乳幼児期・児童期・青年期の発達について① 6 乳幼児期・児童期・青年期の発達について② 7 乳幼児期・児童期・青年期の発達について③ 8 家族の人間関係と子どもに与える影響 9 親の養育態度と子どもの人格形成 10 保育者と乳幼児の関係性について 11 児童理解の実際① 12 児童理解の実際② 13 教師・保育者の関係と役割について 14 子どもの福祉を考える 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	授業への参加姿勢、実践スキルの習得状況、レポートにて評価する。60点以上を合格とする。
備考	出席が2/3に満たない場合は、次年度再履修となる。